

会議の開催結果について

- 1 会議名 令和元年度第3回上尾市総合教育会議
- 2 会議日時 令和元年12月26日(木)
午前・午後11時00分から12時00分まで
- 3 開催場所 本庁舎3階 庁議室
- 4 会議の議題 (1) 教育振興基本計画の基本理念について
(2) 不登校・いじめについて
- 5 公開・非公開の別 原則公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴者数 4名
- 8 問い合わせ先 秘書政策課
(担当課)

会 議 録

会議の名称	令和元年度第3回上尾市総合教育会議	
開催日時	令和元年12月26日(木) 午前11時00分～12時00分	
開催場所	本庁舎3階 庁議室	
議長(委員長・会長)氏名	畠山 稔(市長)	
出席者(委員)氏名	池野和己 教育委員会教育長、細野宏道 教育委員会教育長職務代理者、中野住衣 教育委員会委員、大塚崇行 教育委員会委員、内田みどり 教育委員会委員、小池 智司 教育委員会委員	
欠席者(委員)氏名		
事務局(庶務担当)	秘書政策課	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 教育振興基本計画の基本理念について (2) 不登校・いじめについて	(1) 説明のとおり了解 (2) 説明のとおり了解
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 4名
会 議 資 料	別添のとおり	
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">令和2年1月24日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 _____ 畠山 稔(原本は自署)</p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
<p>司会 (市長政策室長)</p> <p>市長</p>	<p>皆様、こんにちは。 本日は、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。 只今から、令和元年度第3回上尾市総合教育会議を開会させていただきます。私は本日の司会を務めさせていただきます、市長政策室長の石川と申します。どうぞよろしく願いいたします。 それでは初めに、本会議の設置者であります畠山市長から挨拶を申し上げます。</p> <p>市長挨拶 こんにちは。 本日は第3回の上尾市総合教育会議ということで、お集まりいただきまして、ありがとうございます。 また、教育委員の皆様におかれましては、日頃から定例会のほか、研修会など、様々なことをしていただきまして、感謝申し上げます。 色んな教育課題に的確に対応していくには、本日のような会議により、課題が明らかになることが、次の施策の立案に向けて非常に大事だと思っております。 今回のテーマは、「教育振興基本計画の基本理念」について、そして「不登校・いじめ」についてです。本日も有意義な意見交換ができればと思います。今後も皆さま方と一層連携を強化していきながら、上尾の子どもたちの安全確保や、本市教育行政の充実、発展に努めていきたいと考えていますので、ご協力をお願いしまして、挨拶といたします。</p>
<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>ありがとうございました。 11月20日付にて、中野 住衣様が再任されました。 そこで、大変恐縮ではございますが、中野様にご挨拶をお願いしたいと思っております。</p>
<p>中野委員</p>	<p>この度、11月20日付で、引き続き教育委員を務めさせていただきましたことになりました中野でございます。よろしくお願いいたします。 教育課題が多様化、複雑化しているということを実感しています。簡単に解決方法は見つからないなというのが、率直な気持ちです。 上尾市の教育の充実のために、自分の役割を果たし、誠心誠意取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、早速、会議に移らせていただきます。 会議の進行につきましては、上尾市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、畠山市長をお願い致します。</p>

市長	<p>それでは、要綱の定めにより議事を進行させていただきます。 皆様のご協力をお願いします。 それでは、次第に従い進めて参ります。初めに、本会議の公開について、本会議は「原則公開」となっております。 事務局に確認します。本日、傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。</p>
事務局 (市長政策室 次長兼課長)	はい、本日傍聴者4名来ております。
市長	「傍聴あり」ということでありますので、只今から、傍聴者に入場させていただきます。
事務局	はい。
市長	<p>傍聴者に傍聴上の注意を申し上げます。 先ほどお配りしました「傍聴に当たっての注意事項」をよくお読みいただき、遵守するようお願いいたします。注意事項に反することがあった場合には、退場していただく場合がありますのでご了承願います。 それでは、議題の(1)「教育振興基本計画の基本理念について」説明をお願いします。</p>
教委事務局 (学校教育部長)	はい。「教育振興基本計画の基本理念について」森泉教育総務課長より説明します。
教育総務課 森泉課長	<p>資料 P3「第3期上尾市教育振興基本計画の基本理念について」 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されまして、新たな制度の下、教育行政が推進されています。この改正法では、市長が教育委員会と協議をし、「教育行政の大綱を定める」こととされました。大綱については、教育振興基本計画をもって変えることができることから、本市においては、平成27年度の総合教育会議において、「第2期上尾市教育振興基本計画をもって大綱と定める」となっています。なお、第2期上尾市教育振興基本計画は来年度(令和2年度)が計画の最終年度となることから、令和3年度からの5年間を計画期間とする「第3期上尾市教育振興基本計画」を策定してまいります。本日は、参考資料として、国、県の第3期教育振興基本計画の概要も配布しております。後ほどご覧いただければと思います。 資料 P2、国では、2018年(平成30年度)に、県では、2019年(令和元年度)に、第3期基本計画を策定しております。 上尾市の第3期教育振興基本計画については、これからの策定となりますが、総合教育会議に策定経過を示しながら、職員からなる策定委員会作業部会で進めてまいりたいと考えております。説明は以上です。</p>

市長	<p>ありがとうございました。教育総務課長から説明がありました。これにつきまして、意見交換をしたいと思います。</p>
教育長	<p>教育振興基本計画と大綱について</p> <p>来年度（令和2年度）までは、現在の第2期基本計画に基づいて、教育行政を進めていきます。令和3年度から第3期となります。</p> <p>平成27年4月1日に施行された、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（地教行法）の中で、総合教育会議での協議を経て、大綱は市長が示すとなっています。文科省の通知では、教育基本法に基づく教育振興基本計画がある場合、同計画をもって大綱に代えることができるかとされています。他市町村の例を見ても、教育振興基本計画をもって、大綱に代えているところが多いです。教育委員会の案としては、従前の第2期までと同じように、教育振興基本計画を示し、総合教育会議の中で、市長と教育委員さんとの間で、共通理解を図り、同計画をもって大綱に代えるという方向で、進めていくのがいいのではないかと考えております。</p>
市長	<p>ありがとうございました。何かございますか。</p>
中野委員	<p>基本方針「生きる力を育む」について</p> <p>教育振興基本計画の中に、基本理念、基本方針があり、現計画の基本方針に、「生きる力を育む」とあります。改めて、現代社会において、こういう生きる力をつけていかなければいけないなど感じ、具体化して考えたいなと思いました。最近のニュース報道の中で、不登校や大人の引きこもりが多くあります。そうした中、生きる力として、一人の自立した人間として生きていくための、人間力のようなものを身につけていかなければいけないのかなと思います。自立していく人間というものを将来的に目指して、どうやって人間力をつけていく教育をしていくのか、考えていくことが必要だと思いました。</p>
市長	<p>生きる力を育む中で、どうやったら育めるのか、前を向いた方向を示唆していかないといけないのかなと思います。何かが起きてから対処するのではなく、起きないようにしていくというのが大事だと思います。</p>
市長	<p>大綱の策定(今後の進め方)について</p> <p>その他、何かありますか。時間の関係もありますので、私の方から、私としても、教育委員会で、策定されました「教育振興基本計画」を大綱に代えて、教育委員会と市部局が同じ計画の下で、上尾の教育を進めていくことが望ましいと考えております。については、これから策定されるこの計画を定期的に、進捗を確認しながら教育委員会の皆さまと協議してまいりたいと考えますが、いかがでしょうか。よろしいですか。</p>
委員の皆さん	<p>はい。</p>

市長	<p>ありがとうございます。それでは、今後も、教育振興基本計画の策定について、総合教育会議に進捗を報告していただき、この基本理念にあたっては、市の担当部署とも協議しながら進めていくよう事務局にお願いをいたします。それでは、第3期上尾市教育振興基本計画については、継続協議ということで、お願いをいたします。</p>
市長	<p>それでは、議題の(2)「不登校・いじめについて」、説明をお願いします。</p>
教委事務局 (学校教育部長)	<p>P11～「不登校・いじめについて」 P11～13 まで、以前の会議で説明した資料となっています。 P14 参考資料1「教育相談状況について」、説明します。</p> <p>11月末現在、最新の数字になっています。平成27年度から、月別の教育相談のべ件数を折れ線グラフにしたものです。表の赤いラインが11月までを含めたものです。例年よりも大きな増加が見られます。相談内容はP15にあります。全体の教育相談のべ件数は、11月末現在、7,000件を超えており、そのうちの約5,500件が、不登校に関する教育相談のべ件数となっています。この傾向は、不登校中心の相談が多いということで、毎年傾向と同じです。さらにその中で、SSWが関わっているものについては、2,531件で、こちらも、30年度までを見ていただくと、だんだんSSWが関わり、様々な関係機関と連携して対応していかなければいけない教育相談が増えてきているという傾向が今年度も分かります。</p> <p>毎月のべ件数が、今1,000件を超えているので、12月から残り4カ月ありますので、この傾向がそのまま続くということ想定すると、10,000件を超えてくる相談件数になるのかなと思います。</p>
市長	<p>学校教育部長から説明がありました。 意見交換したいと思います。何かありますか。</p>
細野教育長職務 代理者	<p>SSWの必要性について</p> <p>P15の教育相談状況等について、毎回の教育委員会の定例会でも報告を受けていますが、いじめの件数が増えている中で、SSWが対応するケースが増えており、内容も複雑化しています。本人にとっては、学校に行けないという事実があり、その子どもたち、児童、生徒とどういう方向にもっていくか、そのためには、SSWの方が対応していただく重要性、必要性が増えているのが、資料の数値でも表れていると思います。SSWを増やすことになると、それなりの予算措置をしていただくということになりますので、ご理解、ご配慮いただければ助かります。</p>

<p>内田委員</p>	<p>担任の空き時間について</p> <p>児童・生徒が相談する時、担任を頼るというのがはじめにあると思います。SSWの件数が増えているということは、担任に頼れずSSWに相談しているからということもあるのではないかと思います。</p> <p>学校の先生が、不登校の子ども、いじめにあっている子ども等に対して、相談にのる時間、子どもを見てあげる時間が、どうしても取れないというのが一番ネックになっていると思います。</p> <p>教師の働き方改革で、なるべく残業しないようにと言っても、先生方は、英語教育等の教科の準備や色んなテーマが与えられて、時間が取れない状況です。</p> <p>小学校の先生は全教科行いますが、担任の先生に空き時間を持たせてあげないと生徒を見てあげられないのではないかと感じます。副担任や、そういった方が専門の授業を持つなど、空き時間を持つ担任システムのようなものを考えていかないといけないのではないかと感じます。</p>
<p>細野教育長職務 代理者</p>	<p>きめ細かな支援について</p> <p>先日、教育長と教育委員で、フリースクールの見学に行ってきました。子どもたちにとって何がいいのか、色んな方法があるなど実感しました。どういうことが当事者の子どもにとって重要なのか、先生方、学校のさわやか相談室、教育センターなど、関係機関に相談しながら、子どもたちがどこに進んでいくのか、きめ細かい支援を行い、教育相談に取り組んでいくことが必要だと思います。</p>
<p>中野委員</p>	<p>子どもの居場所と相談体制、人材について</p> <p>教育振興基本計画の基本方針の中に、「絆を育む」とあります。これからの在り方として、社会全体で子どもをみていく、社会性を育むということが、より必要になってくると思います。不登校になった場合、多くは、昼夜逆転の生活が始まり、なかなか学校に行けず、社会との関わりが薄れてしまうことがあります。そういう時に、学校だけではない居場所づくりというのが大事なのではないかと思います。</p> <p>家庭と連携をし、様々な関係機関とも繋がりを持ち、居場所を見つけ、支援していくというのが、SSWの仕事として重要だと思います。現在4名のSSWを配置し、対応していただいています。増やすには予算措置が必要になります。SSWのような、そういう役割を担う人材をどのように求めることができるのか考えることがあります。例えば退職された方にどこかで担っていただく、などお願いできることがあればしていくのも一つかなと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>フリースクールや居場所について</p> <p>不登校は喫緊の課題です。2017年の2月、国が大きく方向転換し、「教育機会確保法」が施行されました。学校外での「多様で適切な学習活動」の重要性を指摘しています。今までのように、学校復帰を前提としていた従来の不登校対策を転換し、学校に通えない子どもたちの居場所を提供し、多様な学習の場につないでいくというもので</p>

教育長	<p>す。フリースクールを見学させていただきました。現状のフリースクールでは、中学生より小学生が多くなっています。不登校の原因が、複雑化しており、原因を特定することが難しいのが現状です。調査項目に合わせて、文科省まで報告することになっています。子どもたちの居場所について考えていけないといけない中、フリースクールが増えてきています。家から出られない子どもが、家の中で、インターネット等を繋ぎながら学習をし、学習したものを、フリースクールに通って学習している子どもと同じように扱っていくかというのが、学校教育に関係するところでは、色々物議を醸しています。文部科学省からの通知では、「登校という結果のみを目標にするのではない」とうたわれています。非常に難しい問題だと思います。</p> <p>SSWは4名配置していただいています。相談のべ件数、2, 531件を4名で対応することは大変ですが、対応していただいています。関わる中で、何とかその子の居場所を考えていかなければいけないということで、今教育センターでは、保護者から問い合わせが来た時に、情報を出せるように体制を進めています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>相談件数が増えている中、その中でもSSWの効果が出ていると思います。学校で解決しようと思っても難しいケースがあります。フリースクールや、居場所が作れていけば、また違ってくるのではないかと思います。</p>
教育長	<p>フリースクールを見学して</p> <p>少人数で家庭的に運営しているフリースクールもあります。先日見学させていただいたフリースクールの集団学習は、この会議程（10数名）でした。自分だけで学習したい方のスペースもありました。</p> <p>今の学校では対応できない部分、学校から足が遠のいている子どもが、確かに居場所を持てるということ、実際に自分の目で見て、感じました。</p>
市長	<p>学校の中にできれば一番いいのではないのでしょうか。</p>
教育長	<p>学校を改革することになり、今の学校体制では、子どもたち一人一人にフリースクールで行っている学習を展開することは難しいと感じます。</p>
教育長	<p>不登校への対応について</p> <p>フリースクールの場合、金銭的に当然お金がかかります。</p> <p>新聞報道によると、国も対策を考えていかなければいけないということは出ています。すぐに大幅に改善されるということは期待できないですが、それぞれの立場で、子どもたちのためにどういうことが必要か取り組んでいることは事実かなと思います。</p> <p>テレビでニートが60万人いるとやっていました。ニートの方は、一度就職に失敗してそのまま定職に就けない状況が続いている方も</p>

教育長	<p>いるようです。不登校も多くいますが、実際は大人の中にも同じような状況が続いているのが、日本の社会の現状です。社会の状況も考えて、不登校を何とかしていかねばいけない、国と県でも取り組んでいかないといけない問題だと思います。</p>
市長	<p>8050問題もあり、社会全体の問題として取り組んでいかないといけないと思います。先ほどおっしゃった「生きる力」、「自立」など子どもたちが前向きに生きていけるようなことを考え、取り組んでいくことが大事だと思います。</p>
教育長	<p>成功体験について</p> <p>テレビの報道で、ニートの方々に共通していることは、成功体験が少なく、子どもの頃から失敗し、マイナスイメージで自分を捉えてきてしまったということが非常に多いということを指摘されていました。「これだけ努力したら、こんなに成果が上がった」、「自分がここにいることが、みんなにとって本当に役に立っているんだ」という自己有用感を感じられるような教育、できるだけ子どもたちにやれるようなものを、一つ大きなタイトルとして示せるといいのかなと思います。</p>
市長	<p>マラソンの川内選手に、昨年度新春インタビューの際、雑談の中で、「なぜいつもそんなに頑張れるのですか」という質問をしたとき、「やはり成功体験があるからです」という答えをいただきました。40キロ地点の厳しい時も、頑張ったから勝てました。成功体験が自分にあるので、最後まで頑張れるんですとおっしゃっていました。大事なことです。子どもにとっても一つ一つクリアしていくことは、成功体験で、そのうち大きな目標に向かっていく、チャレンジ精神も養われると思います。</p>
市長	<p>学校教育の中での対応について</p> <p>今までの話を聞いていると、「生きる力を育む」、「自立」、「人間力」などが今の学校システムの中でできるのか、あるいは子どもに今の状況で時間が取れるのかという問題、豊かな居場所を作るとか、学校教育の中でその問題や不足の部分が補えるようになるのか。状況が改善されればいいですが、先生方も精一杯な状況の中、対応できるのか、できないのか、その辺りがはっきりしないと、手も打てないような状況だと思います。</p>
細野教育長職務代理者	<p>学校がやること、やらないこと(権限移譲など)</p> <p>PISA（国際的な学習到達度調査）があり、新聞で日本の学力の低下、体力の低下、など色々なことが言われていますが、今市長がおっしゃったように、全て学校に何とかしてください、居場所がないので学校で何とかしてください、など全部学校で対応することは無理なことです。一方で働き方改革と言われている中、厳しい状況です。資料にもあるように、アウトリーチ型支援ということで、学校が何をやっ</p>

細野教育長職務 代理者	<p>て、やらないのか社会が理解していただかないといけないと思います。何でも学校で何とかしてくださいというのが事実だと思います。現状ではできないことが明らかになっていますので、私たち大人が声を大にして、学校のやるべきこと、できないことを、はっきりと示すタイミングなのかなと思います。具体的に権限の委譲や、何かシステムを作ってやっていただく組織を作ることだと思います。</p>
大塚委員	<p>教員の時間外労働について</p> <p>現在、教員のタイムカードを導入して、職員の残業時間を把握していますが、前回、2割弱の教員が、残業時間が80時間を超えるいわゆる、過労死ラインを超える状況になっているという報告がありました。本当に改革していかないといけない現実問題としてあります。民間企業では、週40時間労働、有給を5日間とるなど、国の指導を受けて取り組んでおり、実際に指導のとおりしなければいけません。教員としてこういう数字が出たというところでは、しっかりと見据えて改善が必要です。ぜひお願いします。</p>
市長	<p>何が問題か分別していかないと対応が取れないということになります。いじめ問題を解消するためにどうしたらいいか、学校で取り組んでいることは多々ありますが、できる部分とできない部分があるなら、SSW や、他機関との連携など、状況を確認しながら対策をしていかないと難しいと思います。地域全体で子どもを育てていくということであれば、考えていかなければいけないのかなと思います。</p>
小池委員	<p>コミュニティ・スクールでの取り組み</p> <p>コミュニティ・スクールが始まり、地域と連携して学校運営をしていくというのがあるので、例えば、「生きる力を育む」というところは、コミュニティ・スクールを使って地域の方々に協力していただき進めていくのもいいのではないかと思います。まだ始まったばかりということもあり、評議委員会では、コミュニティ・スクールの運営や進め方について、まだ分からないことが多く、うまく進んでいない現状だと思いますが、このような不登校・いじめ問題など地域と連携して取り組んでいければいいのではないかと思います。</p>
内田委員	<p>コミュニティ・スクールの運営での問題点</p> <p>コミュニティ・スクールの一番の問題点は、主になっていただく方が見つかるかどうかというのがあります。主になるのが学校だと、コミュニティ・スクールが学校運営になってしまうと思います。地域の方や役員の方等で主動になる方がいるかどうか、見つけられるかどうか、そこが問題になると思います。</p>
教育長	<p>コミュニティ・スクールの運営について</p> <p>教育委員会で三鷹市のコミュニティ・スクールについて、視察に行かせていただきました。色んな所から先進地視察を受けていてかなり進んでいます。視察の説明は、校長先生でも教頭先生でもなく、そこ</p>

教育長	<p>のコミュニティ・スクールを長年やっていた詳しい委員長さんが話してくださいました。</p> <p>先ほど内田委員がおっしゃったように、主になっていただく方をどう見つけるかという問題があります。学校の会場を使い、地域の方にもご協力をいただき、学校運営や地域の課題について、地域全体で取り組んでいくことで、市が抱える課題に、何かの明るい兆しが出てくるのではないかと思います。体協の役員や自主防災なども地域でやっています。主になる方がでてきて、その一つにコミュニティ・スクールもなれば良いと思います。</p>
市長	<p>コミュニティ・スクールの目的は何かといたら、今の学校の課題を手助けするために、コミュニティ・スクールに期待し去年モデル校3校、今年度から全ての学校で始まっています。モデル校3校の結果や視察した結果を踏まえ、その地域に合う進め方でいいと思います。不登校・いじめを減らす、学校の先生の負担を少なくする、いい子を育てるという意味で、コミュニティ・スクールの在り方、進め方を検討することも必要かもしれませんね。</p>
教育長	<p>今後のコミュニティ・スクールの進め方について</p> <p>今年度からコミュニティ・スクールが一気にスタートし、色んなことにぶつかってしまっています。今はコミュニティ・スクールの進め方がまだよく分からず、はじめから理想的な運営をすることは難しいと思います。コミュニティ・スクールを運営するにあたりイメージを持ちやすいように、全国の先進的な取り組みも参考にさせていただきながら来年度は進めていきたいなと思っています。</p>
中野委員	<p>先ほどから出ている「生きる力」は、一般的には、知・徳・体バランスよく育てると言いますが、元になるのは、気持ちや心の部分だと思います。それに火をつけてあげるのが、学校の教員だけでなく社会の中の色々な人と関わり、子どもたちが褒められたり怒られたり、そういう中で心に火をつけてもらって運動や勉強を頑張ったり、心が育ったりということができていくのではないかと思います。そういうことが可能になれば素晴らしいなと思いました。</p>
市長	<p>今日は現状の話や前向きな話や、コミュニティ・スクールの話など、まだまだテーマとして考えなければいけないことが多くあります。時間の関係もありますので、この辺りでよろしいでしょうか。</p>
市長	<p>他にないようでしたら、議題（3）その他に移ります。 何かありますでしょうか。</p>
事務局 (市長政策室 次長兼課長)	<p>次回の総合教育会議の予定ですが、来年度を予定しております。定例教育委員会の会議に合わせて開催させていただきたいと考えております。また時期が近くなりましたらご連絡申し上げます。よろしくお願ひします。</p>

市長	<p>他によろしいでしょうか。ないようでしたら、これで議事はすべて終了いたしました。皆様のご協力ありがとうございました。</p> <p>今年度最後の総合教育会議、大変お疲れさまでした。大変有意義な会議であったと思います。上尾の子ども達のために、今後も行政と教育委員会とがより一層連携を深めていきたいと思っておりますので、よろしく願い致します。それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
司会 (市長政策室長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議の閉会にあたり、教育委員会を代表いたしまして、池野教育長からご挨拶をいただきたいと存じます。</p>
教育長	<p>本日、今年度最後の総合教育会議ということで、大変有意義な時間を作っていただきありがとうございました。お忙しい中、市長の方から第3回の会議を是非ともと言ってくださいました。他市町村では、第2回までの会議が圧倒的に多いです。市長主催で、今年度3回総合教育会議を進めていただいたので、回を重ねるごとに中身が濃くなり、先々期待が持てるなという感じがしました。いよいよ上尾市教育振興基本計画も第3期になります。来年度は具体的に事務局としてお世話になりますので、よろしく願いします。</p> <p>本日は本当にどうもありがとうございました。</p>
司会 (市長政策室長)	<p>以上で令和元年度第3回上尾市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>大変お疲れ様でした。</p>